

資料4

淀川区地域福祉推進ビジョンの策定（案）

令和4年6月7日 淀川区役所

1 淀川区地域福祉推進ビジョンの策定

- (1) 第3期 淀川区地域福祉推進ビジョンの策定
- (2) 第3期 淀川区地域福祉推進ビジョンの策定スケジュール

2 淀川区地域福祉推進ビジョンの振り返り

- (1) 第2期 淀川区地域福祉推進ビジョンの振り返り
- (2) 第2期 淀川区地域福祉推進ビジョン（まとめ）

3 淀川区の地域福祉の課題

- (1) 地域のつながり
- (2) 複合的な課題への対応
- (3) 要援護者への支援
- (4) こども・子育て世帯への支援
- (5) 担い手不足

4 淀川区のめざす地域福祉

- (1) めざすべき方向性
- (2) 重点的に取り組む課題

(1) 第3期 淀川区地域福祉推進ビジョンの策定

- 大阪市では地域福祉の推進に関する事項を一体的に定める計画として「大阪市地域福祉計画」を策定している。（資料1）
- 淀川区ではこの計画を基本計画として位置付け、区の実情や特性に応じた「淀川区地域福祉推進ビジョン」を策定し地域福祉の推進に取り組んでいる。
 - ・・・（現在第2期の推進期間は令和元年度～令和4年度：資料2）

社会状況などの変化

国の制度変更や区民ニーズ、新型コロナウイルス感染症をはじめとした社会情勢の変化などにも対応するものとしていく必要がある。

他の計画との整合性

淀川区のめざすべき将来像、その実現に向けた施策展開の方向性を明らかにするために「淀川区将来ビジョン」を策定しており、各計画（ビジョン）の策定期限をそろえることで区の施策に整合性を持たせる。

地域福祉推進ビジョンを前倒しして策定

(2) 第3期 淀川区地域福祉推進ビジョンの策定スケジュール

【専門機関からの意見聴取】

淀川区地域福祉推進ビジョン策定に関する意見交換会を開催し、各専門分野の見地からのご意見をいただきながら区の考え方を整理する。

- 1回目（6月）：これまでの振り返りや現在の課題認識について
- 2回目（7月）：具体的なビジョンなどについて

【地域などからの意見聴取】

淀川区政会議において地域の方や公募委員から意見をいただき、今後の取り組みなど検討時の参考とする。

- 安全・安心なまち部会（6月）
- 全体会（7月）

【区民などからの意見聴取】

パブリックコメント（10月）を実施し、淀川区にお住まいの方をはじめお勤めや通学されている方などから幅広く意見をいただく。

様々な意見をいただきながら、淀川区として推進していきたい地域福祉を作り上げる

	令和4年度											令和5年度
	～5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月～
地域福祉推進ビジョン		第1回 策定に関する意見 交換会	第2回 策定に関する意見 交換会	公開案作成	パブリック コメント の調整	パブリック コメント	意見 集約	全体版及び 概要版作成	公表	区民・地域への周知		
将来ビジョン	素案作成			公開案作成	パブリック コメント の調整	パブリック コメント	意見 集約	公表	区民・地域への周知			
予 算		☆依頼	調書 作成	サマーレビュー	予算調書作成	☆調書提出						
区政会議（全体）			第1回		第2回						第3回	
区政会議（部会）		第1回							第2回			
区民アンケート					アンケート	集計			アンケート	集計		

令和5年1月に「将来ビジョン」と合わせて公表

1 淀川区地域福祉推進ビジョンの策定

- (1) 第3期 淀川区地域福祉推進ビジョンの策定
- (2) 第3期 淀川区地域福祉推進ビジョンの策定スケジュール

2 淀川区地域福祉推進ビジョンの振り返り

- (1) 第2期 淀川区地域福祉推進ビジョンの振り返り
- (2) 第2期 淀川区地域福祉推進ビジョン（まとめ）

3 淀川区の地域福祉の課題

- (1) 地域のつながり
- (2) 複合的な課題への対応
- (3) 要援護者への支援
- (4) こども・子育て世帯への支援
- (5) 担い手不足

4 淀川区のめざす地域福祉

- (1) めざすべき方向性（考え方）
- (2) 重点的に取り組む課題

(1) 第2期 淀川区地域福祉推進ビジョンの振り返り (資料3)

視点	項目	取り組み	主な課題
地域に愛着を持ちみんなが参画するまちづくり	① 地域福祉活動への参加促進	・・・ 各種媒体による情報発信 など	活動内容の区民への浸透度が低い
	② 地域福祉活動の場づくり	・・・ 各種地域福祉事業の実施 など	コロナの影響で活動の多くが中断
	③ 地域福祉の担い手づくり	・・・ 各種養成講座の開催 など	講座修了者やグループへの支援
問題解決できるネットワークのあるまちづくり	① 身近な地域で相談できる窓口	・・・ 各種相談窓口の設置及び周知 など	情報が届きにくい方への周知
	② 地域ネットワークの充実	・・・ 各地域、団体、専門機関、学校、企業などとの連携 など	コロナの影響による活動の制限
	③ 相談支援体制の充実	・・・ 相談支援体制の構築 など	複合的な課題を抱える方への対応
	④ 地域資源の活用、開発	・・・ 企業、NPO、学校などとの連携 など	地域資源のさらなる発掘
災害時に備えた地域のつながりづくり	① 災害時の要援護者への支援	・・・ 避難所開設訓練や防災学習会 など	若年層の防災意識の向上
	② 平時からの要援護者の支援体制づくり	・・・ 要援護者への見守り体制の構築 など	要援護者の災害時の避難支援

(2) 第2期 淀川区地域福祉推進ビジョン（まとめ）

- 第2期 淀川区地域福祉推進ビジョンの推進期間であった平成31年4月からの4年間、期間後半は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた。
- 特に人が集まるイベントは多くが中止を余儀なくされ、対面が基本であった要援護者への日ごろの見守り活動をはじめとする地域福祉活動も実施できにくい状態が続いてきた。
- また、このような中でも各種情報発信に取り組んできたところであるが、真に必要とされている方に届いているのか、特に複合的な課題を抱えている方に支援が届いていたか等、引き続き検証が必要な課題も多い。
- 一方、近年全国各地で大規模な自然災害が発生しており、国においても災害への新たな取り組みとして要援護者の「個別避難計画」の作成することなどが示される等、災害への備えがますます重要になってきている。
- こうした状況を踏まえ、淀川区地域福祉推進ビジョンをこれまでの取り組みなどによって見えてきた区の課題や現状を踏まえ、また、国の制度変更や区民ニーズ、社会情勢の変化などにも対応するものへとバージョンアップする必要がある。

1 淀川区地域福祉推進ビジョンの策定

- (1) 第3期 淀川区地域福祉推進ビジョンの策定
- (2) 第3期 淀川区地域福祉推進ビジョンの策定スケジュール

2 淀川区地域福祉推進ビジョンの振り返り

- (1) 第2期 淀川区地域福祉推進ビジョンの振り返り
- (2) 第2期 淀川区地域福祉推進ビジョン（まとめ）

3 淀川区の地域福祉の課題

- (1) 地域のつながり
- (2) 複合的な課題への対応
- (3) 要援護者への支援
- (4) こども・子育て世帯への支援
- (5) 担い手不足

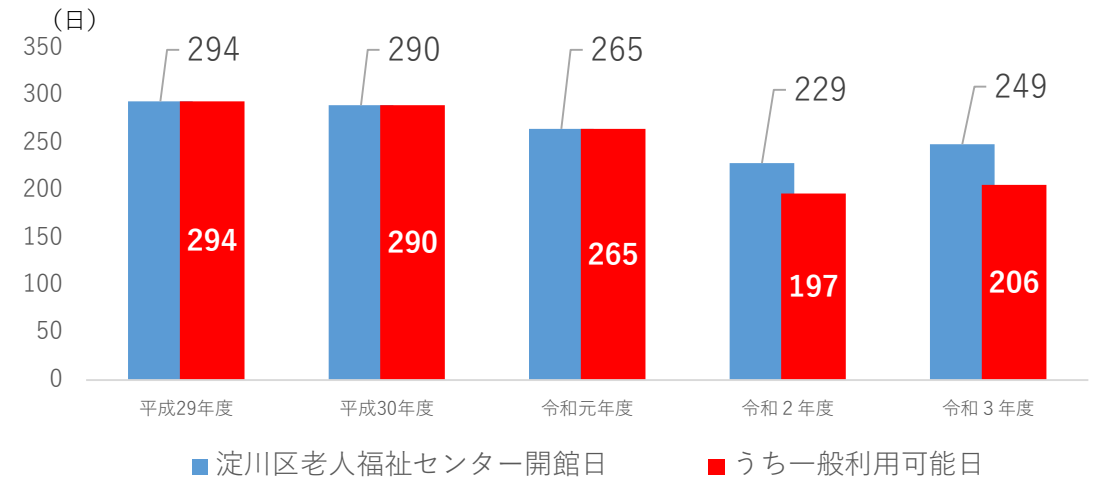
4 淀川区のめざす地域福祉

- (1) めざすべき方向性（考え方）
- (2) 重点的に取り組む課題

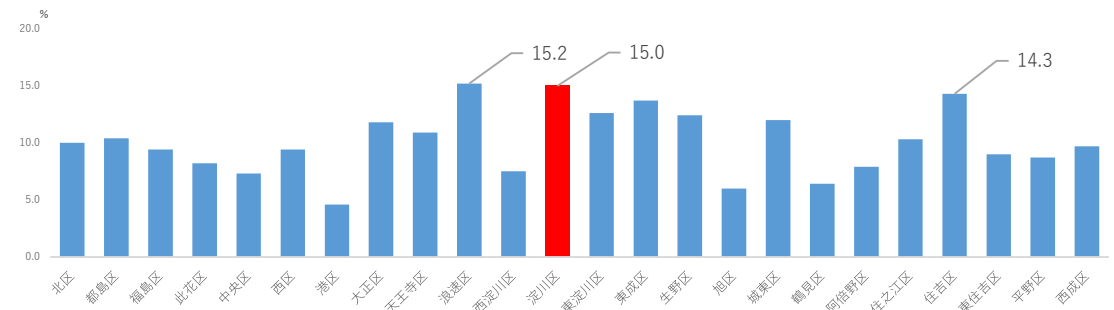
(1) 淀川区の地域福祉の課題（地域のつながり）

- 地域のつながりの希薄化
- 新型コロナウイルス感染症の影響で対面での地域活動が制限されてる。また、高齢者の外出や交流の機会が減少
- 相談窓口がわかりにくい

⇒ 交流の機会が減ったことで気軽に相談できる機会も減少したことで、悩みを抱えた人が身近に相談相手がなく孤立し、必要な情報が届きにくい状況



「お住まいの地域で困っていること、悩んでいること、または不安なことを相談できるのは次の人（機関）のうちどれですか」との問いに対して「だれにも相談しない（相談できる人はいない）」と答えた方の割合。



出典：大阪市における地域福祉にかかる実態調査（令和元年）

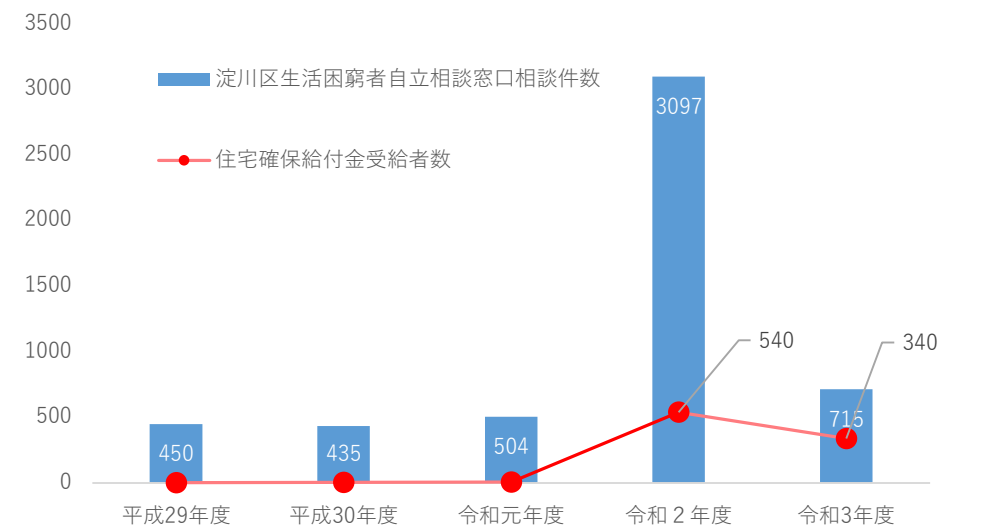
地域における相談支援体制の充実が必要

(2) 淀川区の地域福祉の課題（複合的な課題への対応）

- 新型コロナウイルス感染症の影響も大きく、生活困窮者支援窓口への相談件数及び、住宅確保給付金受給者が増加している
- 複合的な課題を抱えるケースが増えている
- 他の相談支援機関等との調整が課題となっている

⇒生活に困窮されている方の総数自体が急増している

一方で、いわゆる「8050問題」をはじめとする複合的な課題を抱える個人や世帯も増えている



生活困窮者支援会議アンケート集計 出典：令和4年2月25日開催の「淀川区生活困窮者支援会議」に参画いただいた区内の支援機関へのアンケート結果	よくあてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
相談者の支援ニーズが複雑化・多様化し、自機関だけでは対応できないケースが増えている	5	1	0	0
他の相談機関との連絡・調整が難しく、スムーズに連携できていない	0	4	2	0

生活困窮者への支援の強化が必要

(3) 淀川区の地域福祉の課題（要援護者への支援）

- 災害発生時にひとりでは避難することが困難な方の災害時の避難支援について、地域ごとの議論・検討が必要
 - 要援護者に対する個別避難計画の作成や地域特性に応じた自主防災組織への支援が必要
- ⇒災害発生時に一人でも多くの方の避難支援が行えるよう、地域をはじめ要援護者ご本人やその家族、各種団体、行政と一緒に考えることができる仕組みづくりが重要

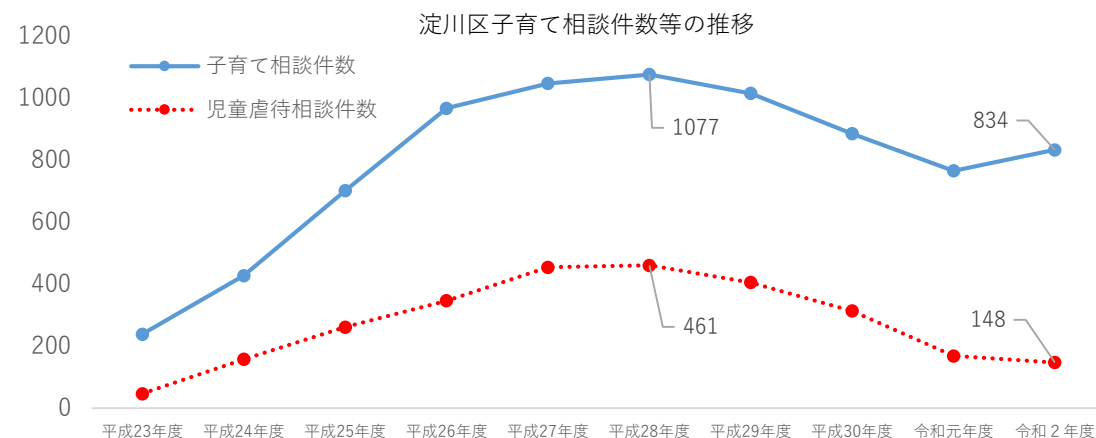
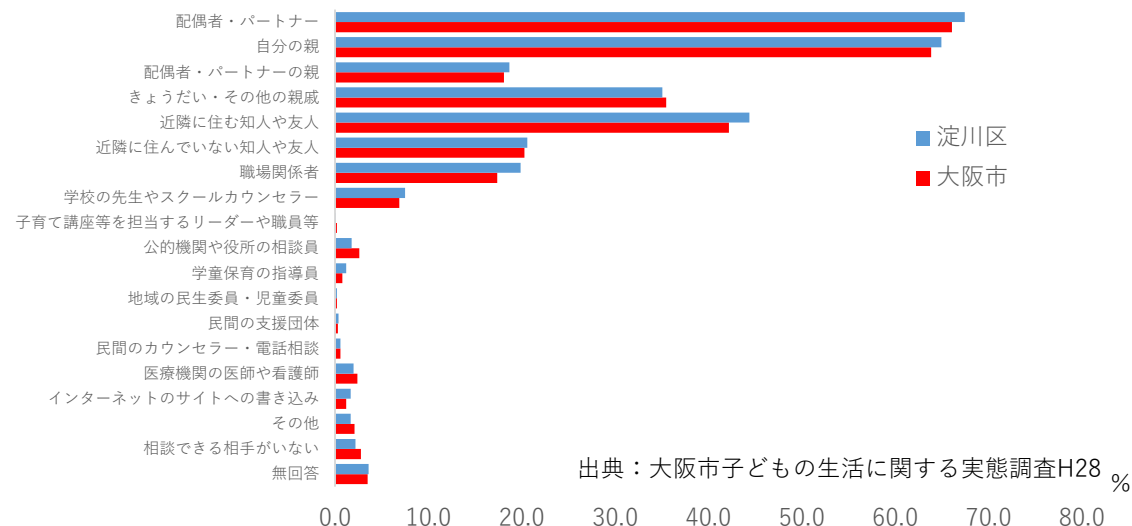
	地域人口：人 (令和2年国調)	同意済 要援護者数：人 (令和3年)
新東三国	9,914	233
東三国	9,269	111
北中島	17,270	306
宮原	14,594	275
西三国	8,817	190
三国	12,667	558
新高	13,658	282
西中島	7,545	134
木川	11,110	262
木川南	4,720	81
十三	7,733	168
野中	7,482	161
神津	6,896	174
新北野	6,152	165
塚本	13,193	230
田川	7,604	190
三津屋	12,853	331
加島	12,109	365
	183,586	4,216

要援護者への支援体制の充実が必要

(4) 淀川区の地域福祉の課題（こども・子育て世帯への支援）

- こどもに関する相談窓口がわかりにくい
 - 保護者（妊娠期含む）自らがSOSを発信できないケースがある
 - 3歳児健康診査から就学時健康診断までの間、行政がこどもの状況把握ができる機会が少ない
 - こどもの居場所が少ない
- ⇒ 重大な児童虐待ゼロめざすためには、いろいろなところや場面で相談できることや、こども自身やこどもを取り巻く状況を把握することが重要

あなたが本当に困ったときや悩みがあるとき、相談相手や相談先はどこですか。（複数回答）

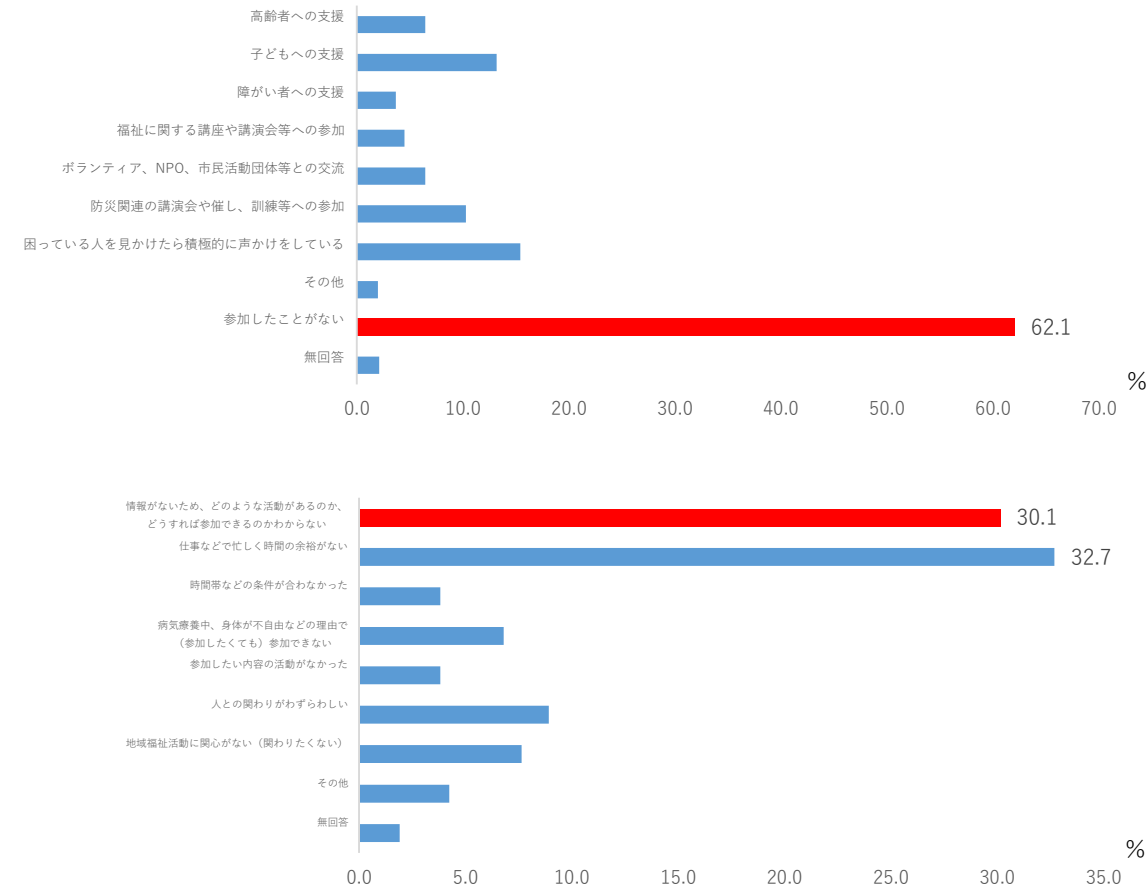


相談しやすい環境や支援やサービスを切れ目なく受けられることが必要

(5) 淀川区の地域福祉の課題（担い手不足）

出典：令和3年度 第2回淀川区民アンケート結果

- 地域福祉活動の担い手不足や固定化・高齢化が課題になっている
 - 区民アンケートにおいて
 - ⇒地域活動に参加したことがないと回答した方の割合が62.1%
 - ⇒上記理由として、情報がないためどのような活動や参加方法があるかわからないと回答した方の割合が30.1%
- ⇒地域福祉活動が「いつ」「どこで」「どのように」行われているかが行き届いていない状況にある。



情報発信の強化と参加促進、人材育成が必要

1 淀川区地域福祉推進ビジョンの策定

- (1) 第3期 淀川区地域福祉推進ビジョンの策定
- (2) 第3期 淀川区地域福祉推進ビジョンの策定スケジュール

2 淀川区地域福祉推進ビジョンの振り返り

- (1) 第2期 淀川区地域福祉推進ビジョンの振り返り
- (2) 第2期 淀川区地域福祉推進ビジョン（まとめ）

3 淀川区の地域福祉の課題

- (1) 地域のつながり
- (2) 複合的な課題への対応
- (3) 要援護者への支援
- (4) こども・子育て世帯への支援
- (5) 担い手不足

4 淀川区のめざす地域福祉

- (1) めざすべき方向性（考え方）
- (2) 重点的に取り組む課題

(1) めざすべき方向性(考え方)

- 淀川区にはさまざまな特性や背景を持つ人々がお住まいになり、それぞれ異なった世帯構成や生活環境の中で暮らされている。
- また、仕事や学校のほか、ボランティアなど、いろいろな理由で地域を訪れ、活動している人々もおられる。
- 一方、新型コロナウイルス感染症が蔓延したことにより経済状況が大きく変化した個人・企業も多く、社会全体もこれまで通りの活動が困難な状況にある。
- 加えて、近年全国各地で大規模な自然災害が発生しているなど、いざというときの「備え」の必要性もますます高まってきており、地域住民同士での災害時の避難支援等を更に実効性のあるものにするための取り組みも求められている。
- このような状況の中、多様な人々が暮らし、働き、学び、訪れる地域で、だれもが自分らしく安心して生活していくためには、住民や行政をはじめ、地域に関わるすべての人の力をあわせて、共に生き共に支え合い、みんなが生活を共に楽しむ地域を作り上げていく「地域福祉」を推進していく必要がある。

誰もが住み慣れた地域で安心して生活し続けられるような淀川区をめざして

（２）重点的に取り組む課題

- これまでの取り組みによって見えてきた区の課題や現状を踏まえ、また、国の制度変更や区民ニーズ、社会情勢の変化などにも対応するため次の項目について重点的に取り組みを推進する。

地域における相談支援体制の充実	- 関係機関のネットワーク強化をはかり、日ごろから顔の見える関係をつくるとともに、多様な主体の協働（マルチパートナーシップ）を推進する - 相談窓口の周知などを進め、支援を必要とする人が確実に支援につながる仕組みづくりに取り組む
生活困窮者への支援の強化	- 様々な課題を複合的に抱えた人を支援するため、総合的な相談支援体制を充実させ支援困難事例に的確に対応できる取り組みを進める - 生活困窮者支援会議を活用して区役所内及び関係機関との連携強化を図り、解決へ向けた取り組みを進める
要援護者への支援体制の充実	- 要援護者名簿を活用して日ごろの見守りと災害時の避難支援を地域の中で一体的に行う「要援護者支援システム」の構築を進める。 - 地域における見守り活動は区社会福祉協議会の見守り相談室や各地域に配置されている「見守り支援員」などと連携するなどして充実をはかり、適切な支援につなげていく - 区民が日ごろから自分のできる範囲で見守りを行えるよう、関係団体と連携して支援に取り組む - 災害発生に備えて地域の活動者と要援護者情報を共有し、避難支援等に取り組む
「淀川区版ネウボラ」の推進	妊娠期から子育て期まで家族全体で子育てに取組み、友人や行政等に子育てに関する相談ができて、必要な支援及びサービスを切れ目なく受けることにより「重大な児童虐待ゼロ」の状態となることをめざす。
地域福祉を支える人材づくりと住民の参加促進	- 地域活動の担い手育成に向けて取り組む - 地域のさまざまな団体との連携・協働を進めるなど - 地域活動情報の情報発信に努める（SNSの利用など）